

公益社団法人  
中部日本書道会

# 濃飛

濃飛支部会報  
第3号

●発行●  
平成26年2月  
濃飛支部広報部  
電話0573-65-6982  
FAX 0573-65-6982

●印刷●  
下呂印刷株式会社  
題字 永治 秋聲

## 濃飛支部長に就任して

石原 聲 風



二十五年一月の支部役員会に於いて濃飛支部支部長に選任されました。

七月の総会に於いて承認されましたが大役を拝命し驚きと共に責務の重さに緊張の思いでいっぱいです。

もとより浅学非才の身ではありませんが、精一杯務めたいと思います。会員の皆様のご協力とお力添えをお願い申し上げます。

中津川・恵那・下呂市と東濃飛驒地域に点在します支部ですが、平成二十五年で第二十八回となる支部展示会を開催致しました。

初代支部長の永治先生を始め歴代の支部長、会員の方が鋭意努力され築いて来られた支部の重みを強く感じているところです。

支部長として昨年は八月の研修旅行を始め、九月よりほぼ毎月の企画委員会、

十一月の公開講座等々に出席させて頂いています。

特に公開講座では良寛さんのお話、筆づくりの方の実演等、興味深いお話が多々ありました。

企画委員会の決定事項についてはその都度支部にも報告し、本部行事に出来る限りの参加を呼び掛け一体として進めていきたいと思っております。

私事ですが還暦も過ぎまして少しゆったりとした人生を、との設計でしたが思った以上に行事が多く忙しく活動しているところです。

最後に本年は中日書道会の八十周年記念事業が企画されています。支部の皆様も全員で参加し盛り上げて行きたいと思っております。

新米支部長のご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。御挨拶と致します。



## 新顧問に市川恵一さん



## 新参与

中川 貴 舟



まずはじめに、公益社団法人中部日本書道会濃飛支部初代・四代の支部長であられました永治秋聲先生が、昨年の春に永眠なされました。支部はもとより書道会、地域にとりましても、偉大な先生とのお別れで残念でなりません。

厳しさの中にも優しさを持って、多くのご指導を仰ぎました。今一度感謝申し上げますとともに、心より哀悼の意を捧げるものでございます。

扱、この度役員改選により、支部長の職を解任となりました。二期四年間大変お世話にあずかりまして、誠にありがとうございました。

この四年間、特に思いに残りましたことは、支部二十五回記念展に、特別企画展が併せて開催できましたこと、又、本部が公益社団法人に認可の年に、支部会報を創刊出来ました。

発行するに当たり、何分にも初めてのことであり、広報部長を中心に多くの方のご指導をいただき、何回もの校正をおこない、ようやく出来上がりました会報を手にしたし、皆様方のご苦勞が実りましたこと、何物にも変えがたい喜びと感謝の念でございました。この会報が、回を重ねて行けるよう、又、より充実していくことを願うばかりで御座います。

まだ他にも多くの事業を行ってまいりましたが、偏に本部の先生はじめ諸先生、そして支部役員の方はじめ、会員の皆様、そして多くの方々のご尽力を賜り、どの事業も盛会裏にて終了出来ました。ここに重ねてお礼申し上げます。

この度の改選により、パワー溢れる石原聲風支部長が選任されました。新支部長は、歴代の支部長の次長を歴任されました。また各役員の方々も、その職に精通なされた先生ばかりで御座います。新支部長を中心に、支部の更なる運営と発展に、ご活躍のことと存じます。

又、私事この度、参与の職務を拝命いたしました。職務の重責を痛切に感じしておりますが、支部発展の為微力ではございますが、精一杯に務めさせていただきます。所存でございます。なにとぞよろしくご指導の程、お願い申し上げます。

新年度

(公) 中部日本書道会

濃飛支部役員名簿

常任顧問	今井 仙童
顧問	市川 恵一
参与	中川 貴舟
支部長	石原 貴風
次長	砂場 佳陽
庶務担当	増田 春暉
経理担当	○小南 黄華
〃	○松田 秋芳
〃	○齋藤 千秋
〃	○渡辺 敬月
〃	○西 恵香
〃	○大野 聲泉
〃	○倉地 西萩
〃	○有 我素導
〃	○林 幸湖
〃	○押田 峽仙
〃	○市川 純慧
〃	○今井 瑞華
〃	○中垣 幸聲
〃	○田口 秋水
〃	○虎井 姚花
〃	○足立 碧泉
〃	○長谷川 秋峯
〃	○加藤 恵里子
〃	○永治 雅芳

(◎)印 担当部長、(○)印 副部長

濃飛支部顧問 故 永治秋聲先生の足跡



二十五年三月一日、永治秋聲先生が他界されました。享年九十一歳でした。ご冥福をお祈りすると共に此処に先生の功績と思い出を少しご披露させていただきます。まず昭和六十一年に中部日本書道会濃飛支部を立ち上げられ初代支部長として九年を務められました。この間支部の基礎を作られ、又支部の顧問としても長く支部活動を支えてこられました。先生の書道会に対する功績が認められ平成二十五年六月の公益社団法人中部日本書道会総会の席上、功労者表彰を受賞されました。

次に書道研究暢陽会を作られ作品創りを研究指導され、毎年テーマを作り暢陽会展を開催してまいりました。特に印象に残るのは平成十一年に三次元の書といった斬新な書体をもってアメリカのロサンゼルスで一週間に亘り展覧会を開催致しました。席上揮毫も行われ先生の雄姿は現地でも感嘆と賞賛の拍手でいっぱいでした。

平成二十三年の暢陽会展の作品は東北の被災地域の方へ送られ現地の方を少しでも励ませればと仰っていました。平成二十四年十月の展覧会は念願の三十三回展記念展として盛大に開催されました。日展書家として書の研究と指導をされ、晩年に於いてもその情熱と意欲は微塵も揺らぐものではありませんでした。お酒が好きで、旅行が好きで、毎年のように国内、海外とご一緒したものです。

先生の功績、足跡については語り尽せませんがその一端をご紹介して哀悼の意を表したいと思えます。平成二十五年

濃飛支部集会

期日 七月二十八日(日) 場所 中津川市 にぎわいプラザ



集会のはじめに濃飛支部設立に御尽力頂きました故永治秋聲先生の遺徳を偲んで黙禱を行いました。本部から松永清石先生、横井宏軒先生をお迎えしました。松永先生から本部代表として祝辞を戴きました。二十四年度事業報告、二十四年度収支決算報告がなされ全員で了承されました。続いて二十五年度事業計画案、二十五年度収支予算案について提案がなされ全員一致で可決されました。今年度は役員改選の年で改選案が了承されました。その他質疑応答があり閉会となりました。

講演会 七月二十八日(日) 講師 松永清石先生 演題 『郷土の先賢に学ぶ』



永田佐吉は、江戸時代中期美濃の国羽栗郡竹ヶ鼻村の人でその佐吉さんの話をしてくださいました。佐吉は慈悲の心、親孝行、数々の社会奉仕等で地域の尊敬を集め佛佐吉と呼ばれていたそうです。佐吉の墓は本覚寺(羽島市竹鼻町福江)にあり岐阜県の史跡に指定されているそうです。『佛佐吉双六』の大きな絵も配ってくださいました。

次に岐阜県海津郡西村勝賀でお生まれに

なった書家吉田桂秋先生の書について話されました。桂秋先生から学ばれた事や桂秋先生の書風についても話されました。桂秋先生は古典的な味わいを生かしながら文字性を常に尊重され数々の作品を残されました。桂秋先生は恵那・中津川にも足を運ばれ書の指導啓発に御尽力された先生で興味深くお聞きする事が出来ました。

○交流会 同日 場所 中津川市『勝宗』 最初に故永治秋聲先生 中川貴舟前支部長に、功労者表彰、感謝状が授与されました。会の途中、永治先生のお好きだった中津川子ども太鼓の力強い演奏がありました。永治先生が観ていらついたら目を細め可愛いなといった表情で涙を流し御覧になっただろうにと思うと残念な気持ちで胸が熱くなりました。その後斎藤千秋先生の詩舞で会は盛り上がりました。おいしい料理を戴きながら本部の先生方とお話が出来、参加された皆様方も楽しかった話が出来交流を深める事が出来ました。本部の先生方会員の皆様ご苦勞様でした。



○第二十八回濃飛支部展 期日 平成二十五年七月二十六日(金) 二十八日(日) 場所 中津川市にぎわいプラザ五階



出品点数 五十点 (賛助出品四点、会員四十一点、会員外五点) 入場者 二百名余 県外からの入場者もあり嬉しく思いました。これを機に会員が増える事を願いました。

# 研修旅行

期日 十一月二十四日(日)  
行先 大垣方面と岐阜県美術館  
参加者 二十三名



「岐阜県に住んでいても大垣は余り行った事がないから行きたいね」と言う皆さんの声で大垣行きを決めました。大垣と言え

ば大垣城、大垣城は関ヶ原の戦いで西軍の本拠となった要衝で江戸時代は十万石の居城として美しい姿を誇っていました。西門からなだらかな階段を上って天守閣へ。この天守閣は昭和三十四年の復興天守閣でまだ新しい木の香がしていました。その後大垣公園を通り大垣市郷土館を見学しました。大垣は水の都とも呼ばれ水の豊かな地です。水門川は桑名への水上交通の経路として利用され今も外掘らしい風情を備えた川がゆったりと流れていました。その川の上の赤い橋を渡ると松尾芭蕉の「奥の細道」むすびの地があります。ここを見学し「奥の細道」むすびの地記念館を見学しました。旅のおわり

は旅のはじまり。ここから又全国行脚に旅立った様です。「大垣っていい所だね。もつと見学したかったね。」と言いながら大垣を後にし岐阜へと向かいました。岐阜県美術館で川合玉堂特別展を拝観しました。大作が多く見応えのある作品に時の経つのも忘れる程でした。大垣から岐阜へと欲張り過ぎた研修で岐路は暗くなり恵那に着いたのは九時頃でした。でも有意義な一日でした。



## 第63回中日書道展

### 入賞入選者

#### 一科

準特選 市川純慧  
入選 虎井姚花  
〃 河村友紀

#### 二科

奨励賞 工藤雅翠  
〃 佐古智恵  
〃 谷川景仙  
〃 渡辺敬月  
佳作 堀川洋子  
〃 磯村小園  
入選 捫垣克美

### 準特選に

市川純慧さん



## 第22回 壽書展 出品者

今井仙童  
今井寿泉  
中川貴舟  
森京華

### 第五十二回永治書院教育書道連盟

#### 学生書初め展について



学生書初め展を二月七日より九日まで中津川にぎわいプラザにて開催致します。子ども達の日頃の書写教育、学習の成

果を発表致します。本年は小学生より半切作品に取り組みます。又作品も生徒自ら選んだ言葉を書き生徒の個性を重視した作品作りをしました。大きな字を書くことは初めての子も多く、辺りを真っ黒にしながら熱心に取り組んでいます。指導者作品も同時に展示致します。皆様のご高覧を頂きたくご案内申し上げます。

各社中だより

第三十一回 暢陽会展

期日 十月十一日〜十三日

場所 中津川にぎわいプラザ五階

平成二十五年度暢陽会会員展が中津川市のにぎわいプラザ五階に於いて、十月十一日より十三日まで開催されました。

今回のテーマは「書を楽しむ」となり、楷行草書はもとより、かな・調和体・篆書・水墨画など百点余りの個性豊かな力作が会場一杯に展示されました。

又、今回は初めて全紙大の作品に挑戦して会場を賑わせておりました。

そして、昨年三月に他界されました永治秋聲先生の遺作が十点ほど展示され、改めて、永治先生の書道への造詣の深さと作品の素晴らしさに一同大きな感銘を受けました。

会期中は多くの皆様にご来場頂き、心よりお礼申し上げます。



芭蕉に思う

芭蕉に思う



十一月、中日書道会濃飛支部の研修旅行に参加させていただき、大垣「奥の細道むすびの地記念館」を見学した。

記念館では紀行文「奥の細道」の解説をはじめ松尾芭蕉の人となりや旅に生きた人生を紹介されていた。

以前、出羽三山を旅したとき、湯殿山で、「語られぬ湯殿に濡らすたもとかな」と芭蕉の句が石に刻まれていた。

湯殿山の参詣者は山中の様子を他言してはいけないとされ出羽三山中、最も神秘視された修験道場でご神体は深い谷間の熱湯の噴き出る褐色の巨岩であった。

今では、観光客誘致のため、大いに語り、宣伝して欲しいこと、ガイドさんは言っておられたが、その様子は今でも撮影禁止、パンフレットにもない。足を運んで見るしかない。

何んとも神秘的な地であったが、今でも飛行機、バスを乗り継ぎ数日を要するこの地へ三百年の昔、芭蕉がどのようにして辿ったのか想像すらできない。

(因みに、下呂温泉街にある「温泉神社」には湯殿山の分霊が祀られており、十月には盛大な祭礼が催されます。是非一度お参り下さい。)

友人がいて、いつも訪ねる大垣だが、さらに深く芭蕉を知り、もう一度訪ねてみたいと思っています。

直子

恵那書道会の歩み 恵那書道会創設

昭和二十九年四月一日八町村が合併し恵那市が誕生致しました。

その年六月二十七日、恵那書道会が創設しました。会員は百二十人、会費は月額百円、教室は毎週土曜日午後一時より五時まで、大井又は長島公民館を借りて行っていました。昭和三十七年恵那書道会館建築の準備が始まりました。昭和三十八年十一月国鉄大井駅を恵那駅と改名し、十二月二十八日書道会館の看板を吉田桂秋先生に揮毫して戴き書道会館が完成しました。三十九年二月一日より書道会館の使用を開始しました。その前一月九日には、金子鵬亭先生が視察に見えました。昭和四十九年二月九日の記事に盛んな恵那の書道熱と掲載されるまでになりました。昭和五十一年一月一日岡瀬沢書道会主宰砂場佳陽が誕生しました。五十二年二月一日恵那市長より吉田桂秋先生に功労賞が授与されました。

恵那書道会の歩み 次号に続く



平成 26 年度 事業計画

事業名	予定年月日	実施開催場所
支部展	平成26年7月4日(金)~7月6日(日)	下呂市
支部集会	平成26年7月6日(日)	下呂市
講演会	平成26年7月6日(日)	下呂市
支部交流会	平成26年7月6日(日)	下呂市
企画委員会	平成26年9月中旬 平成27年2月中旬	未定
役員会	平成26年4月 平成26年6月 平成26年8月 平成26年12月	中津川市中央公民館
研修会又は講習会	未定	未定

支部会報第4号発行 平成27年2月1日

編集後記

東日本大震災から早や三年が経とうとしていますが、復興がなかなか進まず三月十一日のままだと言う現状の方々の声を聞きます。その上昨年は地盤崩れ、竜巻、突風、水害等これでもかと言う程わが国は大打撃を受けました。又個人的にも予期せぬいくつかの大ピンチに遭遇しました。しかし人間はどんな境遇にあっても前を向いて力強く生きぬいていかなければなりません。被災地の方々もお互いに支え合いながら頑張って生きておられます。その上四月からは消費税アップが追い打ちをかけます。そんな中で濃飛支部広報第三号を発行する事が出来ました。これも活動あつてのこと。又皆様方の御協力あつての事、深く御礼申し上げますと共に濃飛支部の益々の発展を祈念致します。

(広報担当 中垣幸章)

●会員募集

多くの方の入会をお待ちしています。連絡先 TEL〇五七三二一六五九八二 TEL〇五七三二一八一四三七